

# 指標シート

自 平成29年4月1日  
至 平成30年3月31日

全体

(単位:千円)

	指標	計算方法	金額等
貸借対照表	資産合計		250,804,470
	負債合計		134,715,118
	純資産合計		116,089,352
	固定資産等形成分		241,009,369
	余剰分(不足分)		△ 124,920,017
	他団体出資等分(連結の場合のみ)		-
行政コスト計算書	経常費用		66,745,293
	経常収益		16,718,435
	純経常行政コスト		△ 50,026,858
	純行政コスト		△ 50,390,389
純資産変動計算書	財源		51,665,092
	本年度差額		1,274,703
	本年度純資産変動額		1,354,105
	本年度末純資産残高		116,089,352
資金収支計算書	業務活動収支		6,207,697
	投資活動収支		△ 4,525,539
	財務活動収支		△ 2,600,720
	本年度末現金預金残高		6,868,405
主要指標	<b>資産老朽化比率</b>	減価償却累計額／公共資産合計－土地＋減価償却累計額	52.5 %
	<b>将来世代負担比率</b>	地方債残高94,139,051千円／有形・無形固定資産合計226,834,675千円	41.5 %
	<b>債務償還可能年数</b>	(将来負担額－充当可能基金)／(資金収支計算書の業務収入＋減収補填債特例分発行額＋臨時財政対策債発行可能額－業務支出)	8.8 年
	将来負担額※1		78,466,263
	充当可能基金※1		9,050,889
	業務収入等	業務収入＋減収補填債特例分発行額＋臨時財政対策債発行可能額	65,448,687
	業務支出		57,593,802

※1 将来負担額及び充当可能基金残高については、地方公共団体財政健全化法上の将来負担比率の算定式による。

※2 業務収入は、資金収支計算書(地方公会計)における業務収入(地方税、地方交付税等)による。  
また、「業務収入等＝業務収入＋減収補填債特例分発行額＋臨時財政対策債発行可能額」とする。